



## イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 647 回 殺人事件の街・熊谷市

2015.9.20

先週わが街「熊谷」が、「熱い」以外で、全国的に注目された。

住宅 2 軒で、女性 4 人が惨殺遺体で発見されるという事件が発生、その前々日にも民家で夫婦 2 人が刺殺される事件が発生しており、警察はいずれも同一の容疑者が 6 人の殺害に関与しているとみて捜査を進めている。容疑者のペルー人は、逃亡中民家から飛び降りた際に頭の骨を折り、意識不明の状態にあり、未だに事件は完全に解決していない…殺人事件の街・熊谷の一週間であった。

夫婦二人が殺害された最初の事件、実は我家から 100m も離れていない現場である。

現場の隣家の方は、私どもが大変懇意にしている、古くからの知人である。

暑さも一段落、幸い自然災害も大惨事はなく、穏やかに、静かに暮らしていた住宅街が、この事件で一変した。

警察・救急車両でサイレンは鳴りやまず、空にはヘリコプターが複数機飛び回り、騒然としてきた。

鬼怒川の洪水救助において、誰も助けられないマスコミのヘリ(テレ朝と記載)が、自衛隊機に異常接近し、救助活動を妨害したとのネット配信を見たが、こんなこと慣れていない田舎もんは、事故でもなけりゃいいが…と余計な心配をするもんだ。

そんな中、田舎もんのデバ亀かな？ 色々驚くことが多かった。

当然のように現場周辺は「規制線」が敷かれ、警察によりバリケードテープが張られ、立ち入り禁止となっていた。しかし、現場に至る細い一方通行の道は、テープすれすれまで車両で埋め尽くされた。

そのほとんどが東京ナンバーの高級ハイヤー、もしくはタクシー車両であり、何様のご訪問かと、終始田舎もんは驚いていた。

後でわかったが、これらすべて報道関係者、つまりマスコミの連中である。

近所の生活住民は、我が家の出入りにも不自由し、文句言っても、車を移動させない屁理屈を高飛車に言い返されるだけで、田舎もんはほとんど困っていた。

「チャライ」というか、「ケバイ」というか、およそ熊谷には不釣り合いなお姉さんが、携帯片手に大声でしゃべりながら、閑散とした住宅街を、闊歩して歩き回る光景にも、田舎もんは驚いた。

夕方のテレビ見てたら、あの時のお姉ちゃんが、「現地から生中継です」と、小学生の学芸会みたいなことやっていたので、またまた、驚いた。

小学生、無理矢理追っかけまわし、取材と称していきなりカメラを向けられた子供は、その横暴さに慄(おののき)、恐怖のあまり泣き出す子もいたと聞く。

もう、相当昔の事である。小生の結婚式でお世話になった、日本テレビの**舛方勝宏氏**の言葉をつくづく思い出した。(氏は元アナウンサー、CS 日本代表取締役、日本テレビの取締役副社長を歴任、現在も取締役である)

「…事件があると誰よりも早く被害者の家に飛び込め、泣き崩れる遺族から、一刻も早く被害者の写真をもらって来い、これが報道記者だ。土足で踏み込むことができなかった僕は、報道失格、スポーツ専門になりました…」、そう語る彼の眼は決して寂しそうではなく、むしろ輝いて見えた。

今日(9/19)現在も、1 日 2 度は、刑事さんが自宅訪問に来る。「容疑者確保したのに」と思いつつ、こう、毎日来られると、まだ何かあるのかなあ…と不安になってくる。一刻も早い完全解決を望む！